

① さいたま市図書館の一年

● 概要と展望

(平成19年度から20年度)

さいたま市図書館にとってこの一年は、合併以来の様々な課題・懸案事項に区切りをつける節目の年でした。

まず平成19年4月から開館時間を9時に統一し、全館で開館日と開館時間の拡充を実現しました。組織の面では、これまで教育委員会生涯学習部に各図書館並列での配置から、中央図書館を中心に拠点図書館10館、地区図書館9館、3分館という体制に再編しました。また、中央図書館の開館に先立ち、全館をつなぐコンピュータシステムの基幹となるサーバーの移転作業を10月30日(火)から11月1日(木)まで全館休館することで行いました。懸案だった新刊見計らいについても、20年度より一本化して毎週実施しています。

年間の利用状況は、貸出については約920万点で前年度からは約5%の増加です。市民一人当たりの貸出数は7.6点となり、引き続き全国の政令指定都市のなかで最も高い数値を維持し、予約受付は約150万件と前年度より更に25%増加しています。

他の公共施設との連携の面で特記すべき出来事もありました。うらわ美術館で開催された絵本原画展の関連行事として7月から9月まで13回開かれたおはなし会に市内全域の図書館から28名の図書館職員が参加し、美術館と連携を深めることができました。

今年度は図書館サービス網の充実・強化を図るとともに、安心・安全に利用できる環境整備を目指し、各図書館の特色を生かしたコレクションの保存を検討していきます。

■ トピックス ■

● 東高砂分館の閉館

平成19年9月

昭和51年、浦和駅東口の民間ビルの2階にオープンして以来、市民に親しまれていた分館がその機能を中央図書館に引き継ぎ、31年間の歴史に幕を下ろしました。

● 中央図書館の開館

平成19年11月

浦和駅東口駅前公共商業複合ビルの8階に、市民の課題解決に役立つ情報センター機能とさいたま市図書館ネットワークの中核機能を併せ持つ図書館が誕生しました。

● 北図書館の開館

平成20年5月

さいたま市23番目の図書館として北区、プラザノース内にオープンしました。初日の来館者は5,253人。貸出は11,940点と大盛況でした。なお、北図書館にはこれまで4箇所にあった組織を統合した視聴覚ライブラリーが併設されています。